

キャッシュフロー計算書を活用した財務分析

キャッシュフロー当座比率

キャッシュフロー当座比率は、行政活動によるネットキャッシュフロー（収支差額）をバランスシートの流動負債の合計額で割った比率で、短期の借金返済に回せるお金がどのくらいあるか、現金ベースでの資金繰りの状況を読み取ることができます。

この比率が大きいほど財政運営の安定性が高いことを示します。

キャッシュフロー剰余比率

キャッシュフロー剰余比率は、行政活動によるネットキャッシュフロー（収支差額）をキャッシュインフロー（歳入）で割った比率で、投資又は借金返済に回せるお金がどのくらいあるのか、現金ベースでの資金繰りの状況を読み取ることができます。

この比率が大きいほど財政運営の堅実性が高いことを示します。

(単位：千円・%)

区分	平成19年度	平成18年度
行政活動によるネットキャッシュフロー (収支差額) a	4,536,283	5,036,665
バランスシートの流動負債の合計額 b	4,648,320	4,307,928
行政活動によるキャッシュイン・フロー (歳入) c	37,144,838	36,702,240
キャッシュフロー当座比率 a/b	97.6	116.9
キャッシュフロー剰余比率 a/c	12.2	13.7

(注) 行政活動によるネットキャッシュフロー（収支差額）及びキャッシュインフロー（歳入）は、宮古市全体のキャッシュフロー計算書、バランスシートの流動負債の合計額は、宮古市全体のバランスシートから転記したものです。

フリーキャッシュフロー比率

フリーキャッシュフロー比率は、行政活動によるネットキャッシュフロー（収支差額）から財務活動のキャッシュアウトフロー（歳出）のうち公債費の元金と利子の支出額を差し引いた額を行政活動のキャッシュインフロー（歳入）で割った比率で、自由に使える資金（＝投資活動に使える資金）がどのくらいあるかを読み取ることができます。

（単位：千円・%）

区分		平成19年度	平成18年度
行政活動によるネットキャッシュフロー (収支差額) a		4,536,283	5,036,665
財務活動によるキャッシュアウトフローのうち公債費の元金と利子の額 b		5,685,209	5,222,682
期間フリーキャッシュフロー a-b=c		△1,148,926	△186,017
行政活動によるキャッシュインフロー (歳入) d		37,144,838	36,702,240
フリーキャッシュフロー比率 c/d×100		△3.1	△0.5
資金期首残高（前年度繰越金） e		1,046,312	499,657
当期フリーキャッシュフロー c+e		△102,614	313,640
資金期末残高（翌年度繰越金） f		869,717	1,110,176
来期フリーキャッシュフロー c+f		△279,209	924,159

（注）

- 1 期間フリーキャッシュフローは、会計期間内に生じたフリーキャッシュフローです。
- 2 当期フリーキャッシュフローは、期間フリーキャッシュフローに資金期首残高（前年度繰越金）を加えたもので、当期のフリーキャッシュフローです。
- 3 来期フリーキャッシュフローは、期間フリーキャッシュフローに資金期末残高（翌年度繰越金）を加えたもので、当期と同様の期間フリーキャッシュフローが生じた場合の来期のフリーキャッシュフローです。